

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	3(4)学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	近藤 良子(学内連絡教官 佐藤 美弥子)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題： 高速大容量・ユビキタスの情報環境を迎え、インターネット社会のニーズも、テキスト 音声 静止画 動画へと、その守備範囲を広げています。この科目では writing スキルを立体的に捕らえ、一般的な Word, Excelよりワンランク上の動画も含む技術を活用し、プレゼンテーションを前提とした原稿としての英文構成を実習形式で具体的に学びます。海外との遠隔授業や企画会議・国際学会のビデオコンファレンスなどにも対応できるよう、英語でのプレゼンテーションへの応用力を視野に入れます。</p> <p>(b) 達成目標： writing の立場から、コンピュータ・インターネットをどのように駆使すれば効率よく質の高い結果が出せるのかを習得します。作成した英文原稿をもとに、動画スキルも含む英語でのプレゼンテーションができる応用力を身につけます。大学院・研究室・企業で要求されている、「情報としての英語」を使いこなす即戦力の基礎をマスターし、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「英文情報入手」に関してはニーズに合わせた優先順位、 2) 「英文情報処理」に関しては迅速かつ適切な作業、 3) 「英文情報発信」に関しては説明責任を負える説得力をめざします。

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特にありません。 以下の能力があれば大丈夫です。 ・ Windows での基礎的なコンピュータ操作。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

・高校英語 10段階評価で7 or 8 以上。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特にありません。

以下の能力があれば大丈夫です。

- ・ Windows での基礎的なコンピュータ操作。
- ・ 高校英語 10段階評価で7 or 8 以上。

【教科書等】

教科書は不要。テキスト・辞書・参考文献などは「紙」のものをできるだけ使わない「ペーパーレス」での作業。

【授業内容とその進め方】

以下については、端末を含む教室内の環境整備・受講者の理解度に合わせて柔軟に対応します。

(a) 授業内容

無線LAN+ラップトップの環境で、PowerPointによる英語でのプレゼンテーションを行ないます。教科書や問題集を使って学ぶ、従来型英作文の授業と異なり、英文サイトを検索しながら、プレゼンテーションを前提とした原稿としての英文構成を「英文情報入手」「英文情報処理」「英文情報発信」の各段階をおさえて具体的に習得します。プロジェクターを活用し、PowerPointの操作方法・英語でのプレゼンテーション・双方向での情報交換などを指導します。

(b) 授業の進め方：

4月：授業計画・持参する物・評価法など説明。辞書サイト・翻訳サイトの使い方と注意点説明。課題提示。英文入力ルール説明。作業開始。デジタルビデオカメラによる撮影準備（英語での自己アピール 英文作成）。

5月：英文サイト検索。データ類のダウンロード。アニメーション・画面の切り替えなどPowerPointの基本操作に加え、応用的なスキル育成。動画撮影。英文PowerPointファイル作成。プレゼンテーション全体の構成を考慮に入れて英文原稿作成。

6月：PowerPointファイルに動画をアドオン or 挿入（自宅にソフトのある者はムービー編集可）。英文PowerPointファイル完成。英文原稿完成。英語でのプレゼンテーション。ファイル提出。双方向の情報交換。

7月：英語でのプレゼンテーション。ファイル提出。双方向の情報交換。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ファイルなど提出物・プレゼンテーションと情報交換・出席率・授業への積極的な参加度を次のように総合評価します。

(a) 評価方法：

$$\text{成績評価} = (\text{ファイルなど提出物・プレゼンテーションと情報交換} \times 50\%) \\ + (\text{出席率・授業への積極的な参加度} \times 50\%)$$

(b) 評価基準：以下の到達レベルをもって合格の基準とする。

1. 英文サイトを検索し、自分のニーズに合わせて情報入手できる。
2. 英語でのプレゼンテーションを前提とした原稿としての英文構成を把握している。
3. PowerPoint・静止画・動画などの基本スキルを習得している。
4. 英語でプレゼンテーションし、双方向で情報交換できる。
5. 規定の出席率を満たしている。
6. トップダウンの正解を安易に受身で待ち続けるのではなく、積極的に授業参加できる。

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日の授業後。
授業中でも合い間を見て相談にのります。

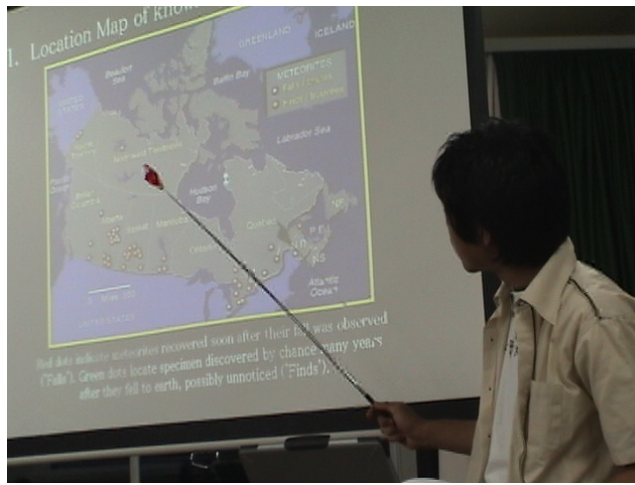
【学生へのメッセージ】

一般的なWord, Excel レベルの一步先を進みたい。「高速大容量・ユビキタスの情報環境」に備え、企業・大学院・研究室などで戦力になる「情報としての英語」を使いこなしたい。そんな皆さんの受講を期待しています！

【その他】

電通大では、学部での卒業研究＋中間発表や、修士課程での修士論文＋中間発表でも「PowerPoint」が使われ始めています。企業・研究室でも必須アイテムの「PowerPoint」を、学部のうちに高いレベルで習得しておくとう利です。個人的に、プロジェクタ＋スクリーン＋PowerPointの環境を持つのは難しいので、是非大学の施設を活用して下さい。

関連図1



関連図2

No Image